



学校だより

令和 5 年 9 月 29 日

学 校 教 育 目 標

10 月 号

ともに学び、創り出し、行動する子 = 輝く自分、輝く鶴小 =
横浜市立 鶴ヶ峰小学校

(<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tsurugamine/>)

このまちに生きる

校長 渡辺 正規

「暑さ寒さも彼岸まで」
この言葉を今年ほど意識した年はなかったのではないのでしょうか。ようやく訪れた過ごしやすい季節を大いに楽しみたいものです。

先日、3名の本校第一期生をお招きしました。卒業されてから65年が経っています。節目の年に当たり、5年生が、本校をさらに良くしていこう、未来に向かってできることを探ろうと、総合的な学習を進めている中でのことです。グループごとに、子どもたちの質問に熱心に答えてくださいました。

「開校当時、校庭には樹木も遊具も何もなかった」「プールは保土ヶ谷公園まで行っていた」「雨が降った後は水をかき出して校庭を使っていた」など、工夫しながら礎を築いていったことが語られました。

また、「授業は二部制で、放課後は地域ごとにグループになって、持ち回りで友達の家で勉強していた」「そのとき出されるおやつが楽しみだった」などの話に、子どもたちは聞き入っていました。

そんな中でも、「ドッジボールや長縄、鬼ごっこなどの遊びが楽しかった」ことは今と変わらないと、親近感を覚えているようでした。勉強も楽しく、助け合って毎日仲良く過ごしていたとのこと。なるほど、そのことが長い年月が経ってもこうして来校してくださることにつながっているのだなと合点がきました。

当時、まだ校歌がなかったという話に対して、「では私たちが歌いますね。」と、創立10周年時につくられ、今も続く校歌を子どもたちが誇らしげに歌うという一幕もありました。私も感激しました。

第一期生の方々は、素直に応じる子どもたちの様子に終始顔がほころんでいました。また、タブレット端末を効果的に使い、質問したり、分かったことを書き込んだり、色分けしてアンダーラインを引いたりしてまとめる姿に感心されていました。新しい教育のもと、未来を切り開いてほしいというメッセージもいただきました。

「一句の日」や、「あひる班活動」は、より良い学校への願いのもと、その後つくられてきたことも分かりました。これから学習は深まっていますが、未来へのヒントを得たようです。

先日は6年生が修学旅行に出かけてきました。日光の大自然や世界遺産に触れ、鶴ヶ峰との違いを感じると同時に、このまちの良さも見つめようとしています。他学年でも、駅前の商店街、スーパー、地域ケアプラザ、近隣の方の畑などと交流しています。大変お世話になっていることを感じながら、自分たちでできることは何かを探っています。



このまちで生きる子どもたちにこれからも応援よろしく申し上げます。